斷崖中腹に北陸街道を通じたるに之を南方山中に通じたりと記し、地圖上の觀察によりしものか、駿河の久能山よりは三保松原、清見瀉の認められざるに之を望み得べしと記せし如き、以上は此の書中に散見せる缺點中二三に過ぎず、もし斯る誤謬を知りて之を記したりとするも、著者不謹慎無責任の誹を免る能はざるべし、余は此の書が單に漫遊記、探検記、小説類の如きものに非ずして、教育上の參考書として廣く之を繙く人多かるべきが故に忌憚なく苦言したる所以なり、余豈に辯を好まんや。

(小林房太郎)

●北極 “The North Pole.”

本書は一九〇九年に北極を發見せるピアリー Robert E. Peary 氏の著なり、ルースベルト Theodor Roosevelt 氏の序文グロッセノル Gilbert H. Grosvenor 氏の前文を有し、三十五章三百二十六頁の冊子にして、地圖一挿畫百十六あり、ロンドンにて出版せられたり。

本書はピアリー氏著書中の白眉にして、又既刊の北極關係の書籍中或點まで最良のものなり、本書の要部は二十有餘年に亘れる經驗の要を摘みて簡潔に説述せられ

たるものなるが、これ多年の研究と企劃と經驗並に辛苦の餘に出てたるものにして、此準備なくして何人も本書を草し得べきにあらず、實に本書は北極に關する幾多の新知識を貢獻するものとして、はたまた北極發見者の手に成れる北極最初の征服史として共に他に比類なく、苟も北極探検を企圖するの士は最も慎重に本書を研究せざるべからず、氏が記述せる航海記事を讀了することなくしてスミス海峽を通過せんとするは愚も亦甚しかるべし氏はエレスメーアランド Ellesmere Land 及グラントランド Grant Land の沿岸に於ける避難港、氷山及潮流の事情に精通せり、是等の頁を繙かば氏が本書を草するの準備に如何に力を注げるかを知るに足るべし。極に到る櫓旅行に於て氏は睡眠用の囊を使用せざりき、彼は一八九一、二年内陸氷を越へてグリーンランドの北岸に到達したる最初の旅行以來決してこれを使用せざりしなり、氏の一行は天幕内の床上に眠り、麝香牛の皮を敷き、鹿の革を着用せり、彼は準備品を變更して羊の革を纏ひ、新式の櫓を使用し、犬の防禦には材料こそ異なれエスキモー人のなすが如くし、豫め困難なる旅行を遂行して隊員

を訓練し、又先住人を豫備員として雇用せり、凡て是等は完全に遂行され、最後の成功に與つて大に力ありしものにして、將來氷上に探檢を行はんとする人士にとり最も重要な示教にして、且充分の幫助たるを疑はず、加ふるに氏一度北極に到達して今や單に北極到達てふことは北極探檢の目的の一たる價值なきに至り、無謀の人士が暴虎憑河の勇に驅られ徒に北極に向つて突進し、貴重生命を失ふことあるべきを未然に防止したるの効も亦決して没すべきにあらざるなり。

本書は好箇の索引を有し、挿畫亦賞讃に値す、北極探檢の大成功の一を記念すべき本書の完成に於て、出版者も亦よく其責務を全ふせるものと謂ふべし。(横田)

●支那文明記

大同館發行
定價一圓三十錢

宇野文學士の著にして氏が支那滯留中風俗習慣社會の事情名所舊蹟等一々故國の兩親に書き送りしもの集まりて此の書となれりと、書中目次を分つこと三十二、横濱出帆に筆を起し、太沽上陸、天津より北京に入り、山東に遊び、長安に、長沙に、武漢に、南京、鎮江、蘇州、杭州等に至る間其の見聞せし處悉く之を擧げて漏らすな

し、終りに支那の家族制度、支那の社會事業、革命と支那國民思想、支那國民性論を加ふ、文辭俗に流れず難解の箇處なく、一見以て支那を解するに缺く可らざる書なるを認む。(AB生)

●南極探險隊消息

新聞紙の報導によればノルウ

エーの南極探險隊アムンドセン氏の一行は南極に到達したるものの如し、曰く氏は昨年十二月八日八十八度二十五分の地に達し、同十三日九十三度四十五分に到り、十四日午後三時愈極地に達したり、當時の氣溫は零下九〇度四なりしが、途中零下七十六度に下りしことあり、氷の障礙多く行くこと五十五日間にして犬三十四頭を失ひたり、極地に達せしは氏外四人と犬十八頭なり、氏は今回の探檢によりてサウスビクトリアランドとエドワード七世ランドとは連絡せるものの如く、南東方に連峰起伏して極地に達するが如きを八十八度まで見届けたり、又同山脈中には著しき高山あるを發見せり、十七日南極を發して歸途に就き、本年一月七日ウエールズランドに達し、三十日同處に留まりしが、同十六日我が白瀨探檢